

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K14795

研究課題名（和文）近世における神社建築の復古像に関する研究

研究課題名（英文）Study on the revival of shrine architecture in the early modern period

研究代表者

加藤 悠希 (KATO, Yuki)

九州大学・芸術工学研究院・准教授

研究者番号：80790815

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近世において神社建築の復古的イメージがいかに成立・流布したか、またそれが実際の建築にいかに関与されたか、ということを検討しようとするものである。成果として言説や遺構などの事例を収集はできたものの、成立・流布の様相を具体的に描き出すには至っていない。一方で、古風なものとしてよく言及される伊勢神宮の社殿を模した神明造など、神社本殿の形式・意匠がどのように認識されていたか、という点について知見が深められ、いくつかの論文等で成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

神社建築に対する現代の理解の多くが、近世（あるいは中世末か）に成立した認識を基盤としており、近世における認識を解明することは、近世建築史研究において重要であるのみならず、現在の神社建築の認識を問い直すことにもつながる。その点において、本殿形式の分類について一定の知見が得られたことは、現代の認識の有用性や課題を考える上で重要な成果であった。一方で、神社建築の復古像については、十分に解明できなかったため、引き続き検討を重ねる必要がある。

研究成果の概要（英文）：This study attempts to examine how the images of the revival of shrine architecture was established and disseminated, and how it was reflected in actual architecture in the early modern period. As a result, the author were able to collect many written documents and architectural remains related the revival, but have not yet been able to depict the aspect of establishment and dissemination. On the other hand, the author was able to get insight into how the form and design of the main shrine was recognized, and published the results in papers.

研究分野：建築史

キーワード：神社 復古 神明造 考証

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近世における建築の復古に関する研究は、もっぱら伊勢神宮・出雲大社・内裏といった際立った事例に関して進展してきた。応募者自身もこれまで伊勢神宮および内裏の復古に関して、江戸時代を通じて復元考証が深化していく様相や、復元考証と実際の造営との関係などについて知見を蓄積してきた。

しかし、一方で神社建築において彩色や装飾を排除しようとするなど復古的な動向が一部にみられることについては、その実態がほとんど解明されずにいる。そこで、これまでしばしば「復古的」という形容のみで曖昧に済まされていた近世の神社建築について、どのような部分に関して誰が何のために復古を行おうとしたか、詳細かつ具体的に読み解くべく、研究計画を作成した。

2. 研究の目的

本研究は、以下の三点の検討を通して、近世における神社建築の復古像およびその歴史の変遷を描くことを目的とした。

- 1 言説などに現れる神社建築の復古像（イメージ）の内容と、成立・流布過程。
- 2 上記成立・流布の過程で主導的な役割を果たした人物・流派と、その目的。
- 3 成立・流布した復古的なイメージが現実の神社建築の造営に反映される様相。

神社建築に対する現代の理解の多くもまた、近世に成立した認識を基盤としており、本研究を通して近世における認識を解明することは、近世建築史研究において重要であるのみならず、現在の神社建築の認識を問い直すことにもつながるものと期待される。

3. 研究の方法

具体的な方法として、神社の復古造営に関する考察（事例収集、実地調査、関連資料の収集・分析）、神社建築の復古像に関する考察（資料収集、影響関係等の分析）、大工と神職の関わりに関する考察（門人帳・儀式巻物等の分析）といった作業を想定した。

4. 研究成果

(1) 復古的な神社の事例の収集

まず、形式・意匠に復古的な要素がみられる可能性のある神社の事例について、近世社寺建築調査報告書や近世に成立した各地の地誌・名所図会等から収集しようと試みた。しかし、近世社寺建築調査報告書では近世後期に建てられた装飾の少ない社殿の多くが調査対象から外される傾向にあったようで、興味深い事例は若干にとどまった。いっぽう近世の神社建築の意匠・形式を確認する過程において、古風な形式を伝えるとみられる神明造や大社造・住吉造などの建物についてはいくらか事例が収集された。とくに神明造社殿については近世において広い範囲で少なからず事例がみられたため、それらがどのような背景から造営されたか、といった点については、本研究の一環として情報収集と考察を進めることにした。

また、建築技術書や国学者・神道家等の著作・記録類からは、組物を排する、伊勢神宮の簡素な意匠を理想的に語るなど、復古的な志向の読み取れる記述を収集した。あわせて、近世の神社本殿における形式・意匠について、神明造や住吉造といった古風な形式を伝えるとみられるものにどのような関心が寄せられたのかという点を中心に、文献や絵画資料などから事例を収集した。結果として、千木・鯉木などへの関心の強さがうかがわれる一方で、神明造の独立棟持柱に対する関心はあまりみられないことなど、近世における関心の所在を検討する手掛かりが得られた。

以上、文献・遺構ともに興味深い事例を収集することはできたものの、相互の影響関係等の考察にまでは、至らなかった。

(2) 神社本殿の形式・意匠の意味について

本課題は上述した事例収集において課題として浮かび上がってきたもので、とりわけ本殿形式がどのように認識されていたかについて検討をすすめて、以下のような知見が得られた。

そもそも神明造や住吉造などという神社本殿特有の形式概念が通用される状況については、祭神の勧請時における新たな社殿の造営において、祭神に対応した社殿形式の採用が想定され

ており、そのために多様な種類を把握する必要があったことが背景にあったものと理解される。その際には、神明造であれば伊勢神宮、住吉造であれば住吉大社というように、規範とされる神社が想定される一方で、大工技術書等に神明造あるいは住吉造として記載されるのは勧請する際に造営する簡略化されたものであった。特に伊勢神宮と神明造の関係に着目したとき、17世紀末頃の『建仁寺派家伝書』や『黒田宗信伝来目録』によると大工は伊勢の祭神を勧請する際に神明造を採用することを自明視しているのに対し、伊勢神宮はときに祭神が勝手に勧請されたことを幕府等に訴え、千木・鯉木といった建築的要素が模倣されることについても取りやめるべきとの主張を行っている。伊勢神宮の社殿形式の特徴的な形態が共通認識としてあるなかで、そこにはどこまで伊勢神宮に似せるか、どの程度簡略化するか、という建築の意匠をめぐる微妙な問題が顕在化していることを確認することができた。

(3) 近世における建築の復古について

当初の目的とした「神社建築の復古像」について明確な像を描くことはいまだできていないが、日本建築史の流れの中で江戸時代の復古的現象がどのように位置付けられるか、という点については、研究期間中に原稿執筆の機会を得て若干の見通しを示すことができた(加藤悠希「日本建築における過去の継承と復古」、『伝わるかたち / 伝えるわざ 伝達と変容の日本建築』所収)。近世の状況については、断片的ながらも興味深い事例が集められていることから、引き続き継続して課題に取り組んでいくこととしたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 加藤悠希	4. 巻 15
2. 論文標題 日本神社建築的形式分類	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国建築史論叢刊	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本 忠規、加藤 悠希	4. 巻 32
2. 論文標題 『黒田宗信伝来文書』「上棟之巻」の翻刻と紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 竹中大工道具館研究紀要	6. 最初と最後の頁 23～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50862/dougukan.32.0_23	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 加藤悠希
2. 発表標題 復元・考証の近世と近代
3. 学会等名 シンポジウム「復元学の意義と課題」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤悠希
2. 発表標題 17世紀における神社本殿の形式分類に関する一考察
3. 学会等名 日本建築学会九州支部研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KATO Yuki
2. 発表標題 Knowledge of Japanese Architecture of the Past in the Edo and Early Meiji Periods
3. 学会等名 International Conference on East Asian Architectural Culture (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤悠希
2. 発表標題 近世における日本の建築と東アジア
3. 学会等名 第4回東アジア前近代建築・都市史円卓会議(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 海野聡編 児島大輔、マルティネス・アレハンドロ、加藤悠希、青柳憲昌、マレス・エマニュエル、川本悠紀子、高田和徳、田中弘志、前川歩	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 344
3. 書名 文化遺産と 復元学 遺跡・建築・庭園復元の理論と実践	

1. 著者名 平井聖 編集代表、後藤治 編集幹事、内田青蔵 ほか 編集委員、加藤悠希 ほか 著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 日本の建築文化事典	

1. 著者名 藤井恵介先生献呈論文集編集委員会編、稲垣智也、長谷川香、韓志晩、新妻淳子、李暉、加藤悠希 ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 446
3. 書名 建築の歴史・様式・社会	

1. 著者名 赤澤真理、海野聡、米澤貴紀、加藤悠希、鈴木智大、稲垣智也、坂井禎介、アレハンドロ・マルティネス ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本建築学会	5. 総ページ数 128
3. 書名 建築におけるオリジナルの価値	

1. 著者名 東北歴史博物館編、赤澤真理、海野聡、加藤悠希、是澤紀子、鈴木智大、登谷伸宏、中村琢巳、西松秀記、野村俊一、米澤貴紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北歴史博物館	5. 総ページ数 143
3. 書名 伝わるかたち / 伝えるわざ 伝達と変容の日本建築	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------